

令和6年度学校評価報告書

令和7年3月17日

北海道教育委員会教育長 様

北海道伊達開来高等学校長 藤 村 学 印

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

教職員の共通認識と協働体制の下
 (1) 系統だった計画に基づく探究的な学習活動の充実
 (2) 生徒一人ひとりの進路を実現するキャリア教育の充実
 (3) 生徒一人ひとりに生きる力を育む生徒支援の充実
 (4) 地域の期待に応える教育活動の充実

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 年度はじめに観点別学習状況の評価について研修を行ったが、学習評価のインフレーションが発生している。 「総合的な探究の時間」や「だて学」では、教科という枠組みを越えて、複合的な視点を活用した学習を進めることができた。 	○生徒の評価が高い項目が多く、適切に取り組まれていると思われる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で重点的に育成する資質能力を学校教育目標と照らして確認し、学校全体での授業改善を進める。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 校則の見直しを実施し、生徒に主体性を持たせる指導を行うことができた。 不登校生徒について、サポート委員会と連携し、早期に情報共有し対応することができた。 	○基本的な生活習慣については、生徒自身の評価が概ね良好であることから、今ではなく将来のために主体性を持たせた指導を継続していただきたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間の日常的なコミュニケーションスキルの向上を図り、即時的に情報共有し組織的に取り組む。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 活動毎に「進路シラバス」を確認しながら業務を進めることができた。 講習の機会を増やしたことによって成績上昇につながった科目もあった。 	○進路指導に対する生徒と保護者の評価に乖離があるため、難しいことだが個別の進路相談などで、教員・生徒・保護者のそれぞれの思いを共有する取組を進めていただきたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己理解を推進し、早い段階から進路を意識させる活動を実施する。 学校全体で生徒の進路実現をバックアップする体制を作る。 	
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 綿密に生徒と連携を図り、生徒の主体性や自主性を重んじた行事運営ができた。 専門委員会活動の充実を図った。 	○生徒は行事・部活動に対する教員の関わりを高く評価しているため、学校はもっと自信を持っていただきたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 行事の内容や日程を検討し、安全かつ充実したものになるよう計画する。 生徒の自主性を活かした活動となるようなサポート体制を図る。 	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の発足により保護者や地域との繋がりを強化した。 業務の平準化が図られず、一部に負担が偏る傾向があった。 	○地域連携なども無理のない範囲とし、就業環境も整えて、教員が生き生きと働いている姿を生徒に見せていただきたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 業務分担に偏りがあったため、複数担任制を廃し、業務の平準化を図る。 他年次や分掌との連携を進め、課題解決に必要な方策を共有する。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ、学校運営協議会 	